

北海道臨床教育学会 第1回研究大会の御案内

北海道臨床教育学会会長 福井雅英

会員の皆様におかれましては、時下ますますご清祥のことと存じます。

さて、このたび、北海道臨床教育学会では、2011年7月17日（日）と18日（月：海の日）の2日間にわたって札幌サンプラザ（1日目）および北海道教育大学札幌校（2日目）を会場に第1回年次大会を開催いたします。会員の皆様に多数ご参加いただけますよう下記のように大会概要をご案内いたします。

1 主催 北海道臨床教育学会

2 共催 北海道教育大学

3 期日 2011年（平成23年）7月17日（日）・18日（月：海の日）

4 会場 大会1日目 札幌サンプラザ（札幌市北区北24条西5丁目） 2階 金枝の間
大会2日目 北海道教育大学札幌校（札幌市北区あいの里5条3丁目） 講義棟 3階

5 日程

大会1日目 7月17日（日）

14:00～14:30 理事会

14:30～15:00 受付

15:00～15:10 開会挨拶

15:10～17:30 シンポジウム 語りあい聴きあう臨床教育学への期待と研究の展開

18:00～20:00 懇親会

大会2日目 7月18日（月：海の日）

9:00～9:20 受付

9:20～10:50 課題研究Ⅰ 被災体験に教育実践はどう向き合ってきたか

11:10～12:40 課題研究Ⅱ 教員養成・研修と臨床教育学の展望

13:30～14:00 総会

14:00～15:00 自由研究発表 一般研究部門

15:00～16:00 自由研究発表 実践事例検討部門

6 詳細内容

(1) シンポジウム 語りあい聴きあう臨床教育学への期待と研究の展開

[大会1日目 7月17日 15:10～17:30 札幌サンプラザ・金枝の間]

司会・発題:

- 福井 雅英 (北海道教育大学教職大学院)
- 内田 雅志 (市立札幌病院静療院)

パネリスト:

- 田澤 利弘 (北海道学童保育連絡協議会)
- 本間 康子 (北海道余市紅志高等学校)
- 濱崎 健 (札幌市立幌北小学校ことばときこえの教室)
- 伊藤 克実 (大谷地たかだ保育園)
- 土淵 美知子 (札幌学院大学)
- 相馬 契太 (訪問型フリースクール漂流教室)
- 大口 久克 (久遠郡せたな町立大成中学校)
- 中根 照子 (釧路市立釧路小学校)

要旨：

設立総会におけるトークセッションは大変好評でした。そこでは多様な実践の現場から、直面している問題が具体的事実で語られ、そこでの悩みや考えていることが率直に提起されました。会場参加者からの発言も含めて臨床教育学への多彩な関心や期待が共有された充実感が生まれたのだと思います。

今回のシンポジウムはそれを発展させる形で、臨床教育学への期待と研究課題を語り、聴きあう機会にしたいと思います。

東日本の未曾有の被災を誰もが深く受けとめています。それはそれぞれの価値観の真摯な問い直しにつながっているでしょう。この状況の中で、問題を臨床的かつ根源的に考えることが求められていると思います。それぞれの実践と臨床の現場で、人間らしい生存と発達、人間らしい回復を追究する努力が続けられています。本シンポジウムがそれらの交流と検討を通して、臨床教育学のオリジナリティを考える場になることを期待します。

(2) 課題研究 I 被災体験に教育実践はどう向き合ってきたか

— 危機の日常化のもとで共にエンパワーされる回復・復興の道とは

[大会2日目 7月18日 9:30~11:00 北海道教育大学札幌校305教室]

司会・発題：

- 富田 充保 (札幌学院大学)
- 中根 照子 (釧路市立釧路小学校)

報告者：

- 佐茂 厚美 (前洞爺湖温泉小学校)
- 今井 雅晴 (北海道札幌工業高等学校定時制・前奥尻高等学校)

要旨：

東日本大震災とそれに引き続く原発事故は、今後日本社会において時代を画する天災・人災として語り継がれることになることは誰の眼にも明らかだと思われます。それは直接的な被災者に巨大な苦難と将来への大きな重荷を与えたばかりでなく、同じ日本に住む他の多くの人々や海外から日本の現状に心を痛めている人々にまで、今後の日本をどうするべきなのか、という問いを突き付けているように思われます。

それは、より本学会に即せば、①人々が安全・安心の下で暮らせるコミュニティの日常をどう取り

戻せるのか？ ②また、未来を担う子ども・若者の世代とともに、大人たちはどうお互いを支え励まし合い、エンパワーすることができるのか？ ③そこに学校・教師をはじめ、医療・心理・福祉等々の援助専門職は、どのような役割を果たしていけるのか？ 等々の問いとなって現れてきているのではないのでしょうか。

それは震災以前の社会にそのまま復帰することを必ずしも意味しないでしょう。産業・雇用の衰退の下で原発立地のターゲットにされた地方とその電力を消費するだけの大都会との激しい地域格差の存在。いままでのエネルギー政策を本格的に問い直すことなく、原発の新たな稼働の企て。またあらたな経済的利益獲得の目論見と被災者にまで増税をおしつけかねない政策の提唱、等々。これらには、先の問いを正面から受け止めているようには見え、直接的な被災者自身の苦難と希望に耳を傾けながら、彼ら自身の力をも生かしてゆく復興とは似て非なるもののように見えます。

本課題研究Ⅰ（被災体験）は、今回の東日本の被災状況を直視しつつも、地方の学会にふさわしく、まず北海道の過去の被災体験（有珠・奥尻等）からの回復・復興にかかわる実践事例報告を通して、①当事者の苦難と希望に寄り添った対人援助のあり方、②当事者自身の回復をエンパワーする発達支援・生活支援の連携・協同した専門的関与のあり方、③それらを通じての地域コミュニティの再創造、について語り合いたいと思います。また可能であれば、東日本大震災・原発事故の直接の被災地での被災体験のもつ意味と、被災者援助実践事例のなかから「人が回復してゆくとはどういうことなのか」「コミュニティが復興してゆくとはどういう姿を意味するのか」等々についても報告いただければと考えています。ぜひ皆さんの参加と発言をお願いしたいと思います。

(3) 課題研究Ⅱ 教員養成・研修と臨床教育学の展望

— 当事者体験を聴きとる〈カンファレンス型の学び〉の可能性を考える
〔大会2日目 7月18日 11:20～12:50 北海道教育大学札幌校305教室〕

司会者：

- 池田 考司（北海道江別高等学校）
- 川俣 智路（北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター）

発題：

- 庄井 良信（北海道教育大学大学院）

報告者：

- 田澤 裕子（北海道教育大学教職大学院・院生）
- 正武家 重治（札幌市立中央小学校）
- 太田 一徹（札幌市立本通小学校）
- 吉田 圭子（札幌市立北陽中学校）

要旨：

いま、日本の教師教育改革は、一つの重要な歴史的転換点を迎えている。政策的には、中央教育審議会の「教員の資質能力向上特別部会」で、いま求められる教師の資質能力が問い直され、その養成・採用・研修のシステム全般も再考され始めている。

例えば、この部会の審議経過報告（2011年1月）では、①教員養成の漸進的な修士レベル化、②新

たな枠組みの教員免許制度の創設（基礎免許状，一般免許状，専門免許状：いずれも仮称），③教員養成の出口管理としての質保証（高度な実践的指導力を生涯学び続けるための基礎的資質の保証），④任命権者と大学が互恵的に連携した新たな研修システムの構築など，教員の養成・採用・研修の一体的・総合的な改革も提言されている。

この部会資料によると，今日の教員に要請されているのは，学校を取り巻く状況の変化に対応できる「高度な教職能力」の涵養だという。資料では，①高度な専門性と社会性，実践的指導力，コミュニケーション力，チームで対応する力，②一斉指導のみならず，創造的・協働的な学び，コミュニケーション型の学びに対応できる力が例示されているが，これらを貫く教師教育の思想やその具体的な実践像は，未だ曖昧なままである。

一方，日本教育学会特別課題研究委員会，日本臨床教育学会課題研究部会など，関連諸学会では，我が国の内外で自発的に積み上げられてきた教師教育カリキュラム改革の試みが，具体的な「教師教育（発達援助者教育）実践」に即して検討されている。そこでは，深い困難を抱える今日の社会状況の中で，いま教師に求められる高度な専門性（あるいは専門性基準： professional standards）とは何か，ある一人の教員のライフヒストリーのなかで，その時々生まれる「学び」のニーズに相応しい研究・研修環境をどう設計し直せばよいのか，また，こうした教師教育（発達援助者教育）実践の具体的な「萌芽」とその意味・意義とは何か，という教育的な問題群も探求され始めている。

しかし，こうした構想も，子どもの発達援助の当事者である教師や，教師と共に働く地域発達援助職の人びとの具体的な格闘と，そこから生まれる切実な声を傾聴し，自らの教師教育実践を臨床的に吟味する省察（reflection）がなければ，上意下達のパターンリズムや絵に描いた餅に墮する危険性があることに十全の注意が払われなければならない。

これまで，臨床教育学は，教員養成・研修において，子どもの生活理解を基軸に据えた＜カンファレンス型の学び＞（子ども理解のカンファレンス）を重視してきた。それは，あるコミュニティを懸命に生きている子どもの理解と支援に，ある種の不安と困難を感じている教師（発達援助者）の声を聴きとり，その人の内的体験に寄り添い，その人が語るエピソードとしての自己物語（self-narrative）を語ってもらい，その人の根源的な問いに響くように語り合い，そこから臨床的＝探求的な意味創造の扉をひらき，そのことを通して，発題者はもとより参加者全員の教育実践構想力を共に磨きあっていく学びである。

こうした＜カンファレンス型の学び＞は，北海道教育大学大学院・学校臨床心理専攻の演習授業（臨床生徒指導特別演習）や課題研究（修士論文の共同支援）などで取り入れられてきた高度職能開発の実践であり，同大学の教職大学院においても積極的な導入が図られている実践でもある。また，地域における様々な自主的教育研究サークルにおいても，同様な＜カンファレンス型の学び＞が日常的に展開されている。今回の提案者は，何らかの形でこの様態の学びを経験してきた現職教員である。それぞれの発題では，その経験に触れながら，この＜カンファレンス型の学び＞が自分の教師人生にとって持つ（今なお持ち続けている）意味について，語っていただく。

この課題研究が，今日の教員養成・研修において，①自主的な研究的・探求的コラボレーションを軽視する論調や，②一般化された教職能力を要素分解し，そこに熟練のグラデーションを描き，その達成度で教師の職務遂行能力（パフォーマンス）の序列的評価のシステムを構築しようとする論調，あるいは，③教職能力の専門性を「教科内容学」（従来の「教育内容学」ではないことにも留意された）という狭い枠組みだけで定義し，子どもの人生（life）への深い尊敬と理解を視野に入れない論調への根源的な問い直しとなることを期待したい。

(4) 自由研究発表

一般研究部門 (時間帯①②: 発表 20分 質疑応答 10分)

実践事例研究部門 (時間帯③: 発表 30分 質疑応答 20分 指定討論者コメント 10分)

※ 発表時間帯…… ①14:00~14:30 ②14:30~15:00 ③15:00~16:00

【第1分科会】 研究棟3階 304教室

司会者:

- 庄井 良信 (北海道教育大学大学院)
- 松永 美冬 (当別町立西当別小学校)

発表者:

- ① 星 貴博 (空知郡南幌町立南幌中学校)
「子ども理解のための多角的コラボレーション—ケースカンファレンスの取り組みから」
- ② 庄井 良信 (北海道教育大学大学院)
内田 雅志 (市立札幌病院静療院)
「臨床教育学の理論的枠組み—臨床 (clinical) 概念の二重性と学術研究のアジェンダ」
- ③ 木村 大輔 (札幌市立手稲北小学校)
「エピソードに基づく子ども理解の試み」

【第2分科会】 研究棟3階 305教室

司会者:

- 福井 雅英 (北海道教育大学教職大学院)
- 竹原 勝則 (釧路市立愛国小学校・北海道教育大学大学院 (院生))

発表者:

- ① 田澤 利弘 (北海道学童保育連絡協議会)
「学童保育にとって高学年がいることの意味と指導員の役割・課題」
- ② 伊田 勝憲 (北海道教育大学釧路校)
「学習意欲研究における“自律性”の位置づけ—内発的動機づけの批判的検討を通して」
- ③ 川俣 智路 (北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター)
「生徒が通える高校とは?—学校生活を保障する教育実践・学校文化・発達援助の検討」

【第3分科会】 研究棟3階 306教室

司会者:

- 富田 充保 (札幌学院大学)

○ 土淵 美知子 (札幌学院大学)

発表者：

- ① 小菅 淳子 (札幌市教育委員会・特別支援教育巡回相談員)
「小学校教師の教師アイデンティティに関する考察—学校臨床の視点から教師役割の内実を探る」
- ② 富田 充保 (札幌学院大学)
「フィンランドにおける子ども・若者の実態とニーズに応じた柔軟な学校システムと運営—中等学校特別クラスでのマイOWNキャリア(My own career)の学習プロジェクトを素材に」
- ③ 中根 照子 (釧路市立釧路小学校)
「子ども理解の再構築—コミュニティ心理学からのアプローチ」

【第4分科会】 研究棟3階 307教室

司会者：

- 間宮 正幸 (北海道大学大学院教育学研究院)
- 正武家 重治 (札幌市立中央小学校)

発表者：

- ① 井上 大樹 (北海道教育大学札幌校・非常勤講師)
「実習経験から子ども理解を深めるための学びへ—学生が実習の「省察」から学び合う試み」
- ② 黒谷 和志 (北海道教育大学旭川校)
「教育実践を省察する教師の「語り」と教師の自己形成—授業検討の場での聴きとりを通して」

【第5分科会】 研究棟3階 308教室

司会者：

- 横井 敏郎 (北海道大学大学院教育学研究院)
- 島山 貴代志 (札幌市立伏古小学校)

発表者：

- ① 高橋 亜希子 (北海道教育大学旭川校)
「北海道の高校統廃合をめぐる状況について—『新たな高等教育に対する指針』後の動向」
- ② 宮原 順寛 (北海道教育大学大学院学校臨床心理専攻)
「臨床教育学における教育的タクト論の展開と教育的思慮深さ概念の生成」